

健康都市 どう実現

市と弘大ワークショップ

弘 前

弘前市と弘前大学は9日、健康都市弘前の実現に向けたワークショップを弘前れんが倉庫美術館で開いた。医療・福祉団体の職員や学生、市民ら約60人がさまざまなアイデアを出し合い、何に取り組めばよいか考えた。

ワークショップでは、参加者が10のグループに分かれ、三つのテーマについて話し合い、発表した。市の抱える健康課題と解決法については「運動不足と塩分の取り過ぎが問題だ。若者をターゲットにしたトレーニング施設が必要。塩分の取り過ぎがどれくらい健康に影響するか実感してほしい」などと提案があった。

ワークショップでは、参加者が10のグループに分かれ、三つのテーマについて話し合い、発表した。市の抱える健康課題と解決法については「運動不足と塩分の取り過ぎが問題だ。若者をターゲットにしたトレーニング施設が必要。塩分の取り過ぎがどれくらい健康に影響するか実感してほしい」などと提案があった。

健康都市の実現に必要なことについては「健診の受診率を上げるため、受診日に有給休暇を取りやすくする」「低糖質のパン



市民の健康づくりについて考えたワークショップ

を普及させ、菓子パンの値引き率を抑える」などのアイデアも出た。

桜田宏市長は「若い頃から食育やスポーツに関心を持つことが、健康長寿にとって大事」と総評を述べ、弘大の「岩木健康増進プロジェクト」健診のビッグデータを生かして市民の健康づくりなどに取り組む考えを示した。

（赤田和俊）